

4月9日(火)南三陸高等学校「旭桜寮」入寮式・歓迎会が行われました。

今回入寮した生徒は、県外から集まった「南三陸kizuna留学生」の第2期生となる10名。入寮した生徒達は「色々な不安はあるけれど、規則正しい生活をしたい」、「10人の仲間と一緒に3年間楽しく過ごしたい」と話してくれました。

また、先輩寮生である5名からは「分からないことがあったら何でもきいてほしい」、「ここでしか学べないことをたくさん学んでほしい」などと頼もしいアドバイスもありました。

佐藤町長は、「南三陸町を第2の故郷と思ってもらえるような、3年間を過ごしてほしい。町としても引き続きサポートを行いたい」と挨拶しました。

歓迎! 南三陸高校へようこそ



百寿のお祝い 佐々木ハルコさん(㊤津の宮)



4月10日(水)に百寿を迎えた佐々木ハルコさんに、町からお祝い金と花束が贈られました。

ハルコさんは、甘いものが好きだそうで、特にお餅が大好きだそうです。お若い頃は農家として米や野菜を育てていたハルコさん。近所の人たちや老人クラブの皆さんと旅行に行っていた時が本当に楽しかったと嬉しそうに話してくれました。

前向きな性格のハルコさん。お子さんが5人、お孫さんが13人、ひ孫さんが5人いらっしゃるそうで、ご家族もきつとご長寿を喜んでいることでしょう。

ハルコさん、いつまでもお元気で。百寿おめでとございます。

百寿のお祝い 山内一郎さん(㊤伊里前上)



4月10日(水)に百寿を迎えた山内一郎さんに、町からお祝い金と花束が贈られました。

一郎さんは、和菓子が好きだそうで、その中でも饅頭が大好きだそうです。とにかく食べるのが好きで、毎日3食しっかり食べる他、おやつも欠かさず食べる一郎さん。

昔から呉服店の他、さまざまな委員や議員まで務められており、これまでさまざまな人達と宴会を開き、とても楽しく過ごされていたそうです。

お子さんが3人、お孫さんが5人いらっしゃるそうで、ご家族もきつとご長寿を喜んでいることでしょう。一郎さん、いつまでもお元気で。百寿おめでとございます。



百寿のお祝い 阿部よし子さん(㊤荒西)

4月15日(月)に百寿を迎えた阿部よし子さんに、町からお祝い金と花束が贈られました。

よし子さんは、好き嫌いがなくなんでも食べるそうで、昔から農業や養鶏をされていたため、卵やお肉が大好きだそうです。

普段は読書や歌をうたって過ごされているよし子さん。昔からどんなことがあっても怒らなかつたご家族の皆さんが話してくれました。お子さんが2人、お孫さんが5人、ひ孫さんが6人いらっしゃるそうで、ご家族もきつとご長寿を喜んでいることでしょう。

よし子さん、いつまでもお元気で。百寿おめでとございます。

より安全・安心なまちづくりを

南三陸町とヤマト運輸株式会社との包括連携協定締結式

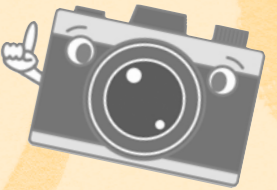


3月21日(木)、ヤマト運輸株式会社様と南三陸町の2者で「包括連携協定」の締結式を執り行いました。

この協定は、災害発生時に被災者などに対して食料、日用品および生活必需品等の迅速かつ安定した供給を行うことにより、被災者の生活の安定、早期の生活再建に資することを目的としています。

また、昨今の少子高齢化の状況、地域社会の安定化などを踏まえ、協定締結の相手方であるヤマト運輸株式会社様の持つ能力、取り組みなどを活かした包括的な協定内容となっています。

みな
レポ



より迅速な情報発信を

3月22日(金)、株式会社登米コミュニティエフエム様と南三陸町の2者で「災害情報の放送に関する協定」の締結式を執り行いました。

この協定は、災害情報の提供および放送に関して必要な事項を定め、迅速に情報提供を行うことで、町民皆さまの安全・安心な生活に寄与することを目的としています。

協定内容には、災害発生時などに町が発令する避難指示などの災害情報を始めとした、被害情報、防災事業などの放送に加え、防災意識の普及啓発、町防災訓練への協力なども含まれています。

放送が開始されていますので、ぜひご聴取ください。

H@!FM (はつとエフエム) 周波数: 76.7MHz

次世代のリーダーとして



3月25日(月)南三陸みらい創生塾「みなぜみ」の卒塾式を執り行いました。

このみなぜみは、「未来へつなぐまちづくりを目指す次世代のリーダーの人材育成」を目的に令和5年5月から実施しており、各地域で活動を展開している「プレイヤー」にスポットをあて、活動分野を問わず「リーダー」として必要となる知識やノウハウを学び、ネットワーク構築の場を提供することとしています。

卒塾式では、これまで11回にわたって開催されてきたみなぜみを通して、「これからの町づくりへの思い」を実際の議会形式で発表いただきました。

「人との縁を広げるために活動していきたい」、「海藻を通じて消費者に南三陸の魅力を知ってもらい、全国へ海藻を届けることで町づくりに貢献していきたい」、「大人と子どもが一緒になって考える、対話し合える場づくりを行いたい」などのさまざまな視点からの発表がありました。

地方に多くの課題が残る現代において、この取り組みがそういった課題解決の一助となることが期待されます。